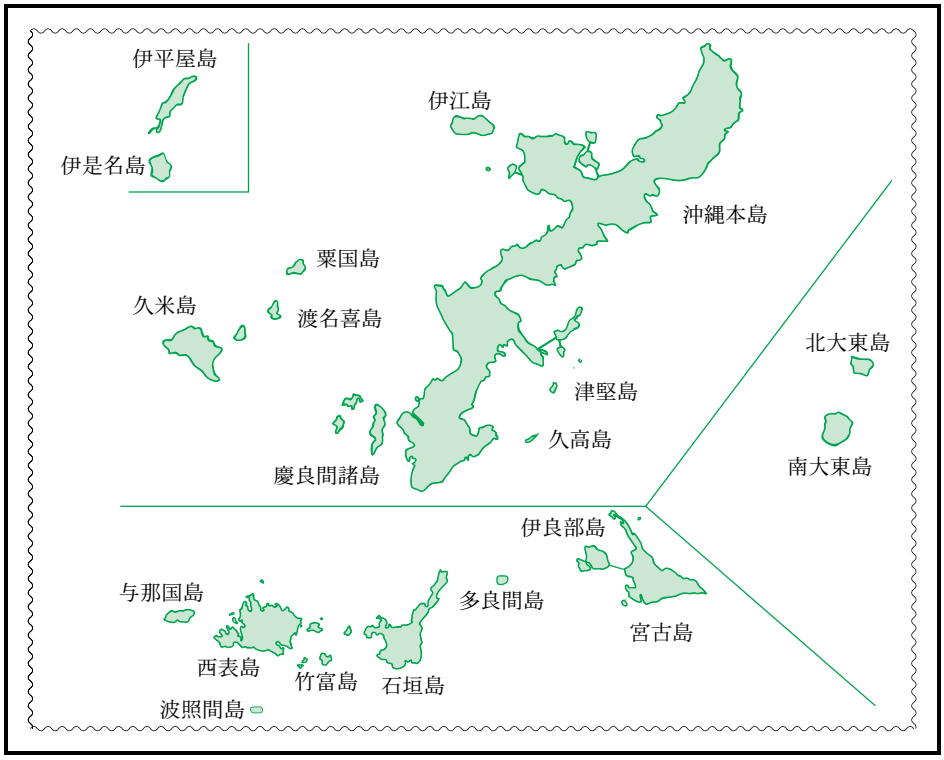
沖縄県小学校長会
沖縄県中学校長会

第 86 号

# 会　　報




## もくじ

１．県会長に就任して
児童生徒、保護者、教職員のウェルビーイングを大切に
那覇市立古蔵中学校　校長　新　地　康　秀 …… 1

２．新任校長抱負
⑴ 聴き合い、支え合い、共に学び、共に育つことができる子の育成をめざして
国頭村立奥間小学校　校長　島　田　綾　子 …… 2

⑵ 夢を持ちじりつ（自立・自律）・協働する生徒の育成
読谷村立読谷中学校　校長　後　藤　直　樹 …… 4

３．特色ある学校づくり
⑴ 企業等を学校経営にいかす取組
～コミュニティ・スクールを通じて～
浦添市立港川小学校　校長　金　城　勝　己 …… 5

⑵ 自己決定をうながす学校づくり
南城市立知念中学校　校長　徳　元　清　政 …… 7

４．校長講話
⑴ 博愛の心をいだく子供の姿を求めて
宮古島市立上野小学校　校長　與那覇　　修 …… 9

⑵「一人一人が輝いて　大中が輝く」校長講話をめざして
石垣市立大浜中学校　校長　仲　地　秀　将 …… 11

県中学校長会会長に就任して

# 児童生徒、保護者、教職員のウェルビーイングを大切に

沖縄県中学校長会　会長
那覇市立古蔵中学校　校長　新　地　康　秀

## 一　はじめに

令和六年度、昨年度の與那覇正樹会長の後を引き継ぎ中学校長会長に就任いたしました、新地康秀と申します。昨年度は、県校長会の副会長を担い、教員の未配置等をはじめとする各地区小中学校からの教育課題の課題解決に関わってまいりました。本年度は、小・中学校長会の代表会長という重責も担っておりますが、本県教育の更なる充実をめざし全力で職責を全うしていきたいと考えています。

県小・中学校長会は、これまで本県教育の充実のため、研究と実践を通して各学校の抱える教育活動の諸条件整備に県教委をはじめ関係機関と連携しながらその改善に努めてまいりました。教員の資質向上に向けた取組、働き方改革「学校ピースフルプラン」の周知と定着、教職員の処遇改善、役職定年制、さらには部活動の地域移行等、これからも取り組んでいくべき課題は山積しております。

これらの課題一つ一つの整備、改善に向けて、行政とも連携しながら沖縄県全会員の結束力を力にしてよりよい方向に推し進め、今後の予測困難な社会をたくましく生き抜く子供の育成に全力を注いでまいります。

## 二　「魅力ある学校づくり」の構築

校長は、児童生徒、保護者、教職員の三者の視点から「魅力ある学校づくり」を構築していく必要があります。

学校は、児童生徒の安心・安全が確保され、学ぶことが楽しい、友達と過ごすことが楽しいと思えるような「毎日通いたくなる学校」でなければなりません。また、学校に子供たちの活躍の場があり、保護者が我が子の成長を感じられる「毎日通わせたくなる学校」、教職員が子供一人一人の成長を感じ取れる、職員同士が互いに信頼し合える、そんな「安心して働ける学校」を構築する必要があります。

教職員の超過勤務、部活動の地域移行等に向き合いながら「学校ピースフルプラン」で示された3軸6視点を推進し、教職員が「働きやすさ」「働きがい」「心身の健康」を十分に実感できる環境整備に向けて創意工夫を凝らしながら実践してまいりましょう。

## 三　各種研究大会の充実

各種研究大会は、校長として研究を深め、資質向上を図る上で重要であると捉えています。本年度も昨年同様、第七六回九州地区小学校長協議会研究大会沖縄大会、第七六回全国連合小学校長会研究協議会徳島大会、第七五回全九州中学校長研究大会宮崎大会、第七五回全日本中学校長会研究協議会岩手大会、そして第六五回沖縄県中学校長研究大会中頭大会がすべて参集型で実施されます。

この機会に校長としてのこれまでの実践を振り返りながら九州や全国各地から集まった仲間と新たな道標を描くチャンスにするとともに互いの絆を深め、会員同士の結束力を強める良い機会としましょう。

## 四　結びに

校長研究大会及び県内各地区の校長と情報交換を行なう地区教育懇談会の二つは、県校長会の重要な活動です。

本年度は、八月七・八日の両日、「なはーと」を主会場に第七六回九州地区小学校校長協議会研究大会沖縄大会が開催されます。小学校長協議会ですが、小学校の校長だけではなく、中学校校長を含めた県内の全校長が心を一つにして課題を共有して解決を図りつつ、協議会で得た教育実践を今後実践することが県内教育の充実につながると考えております。

また、来る十一月七日・八日には中学校単独による第六五回沖縄県中学校長研究大会中頭大会が嘉手納町中央公民館を主会場に開催されます。中頭地区の皆様には何かとご苦労をおかけしますが、昨年にもまして有意義な大会になるよう、よろしくお願いします。

地区教育懇談会は、六月七日の島尻地区を皮切りに七月五日の国頭地区まで六地区すべてに出向き、各地区の教育課題を把握するとともに県教育委員会関係各課との連絡会において各学校の課題改善へ向けて要望してまいります。

全会員の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げ代表会長挨拶とさせていただきます。児童生徒、保護者、教職員のウェルビーイングを大切にチーム校長会が心を一つにして沖縄の宝、子供一人一人が輝く学校経営に全力で取り組んでいきましょう。

新任校長としての抱負

# 聴き合い、支え合い、共に学び、共に育つことができる子の育成をめざして

国頭村立奥間小学校　校長　島田　綾子

## 一　はじめに

本校は、奥間部落発祥の地とされる「アマングスク」の小高い森の麓にあり、西に国道五八号、奥間ターブク、広大な海洋が広がり伊江島や伊是名島などが望遠できます。また、東には比地大滝、そしてヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネなどの「固有種・希少種」が数多く暮らしていることから二〇一六年にはやんばる国立公園に指定され、二〇二一年には国内五か所目となる世界自然遺産に登録された本島最高峰の与那覇岳（五〇三ｍ）をはじめ、亜熱帯の木々が生い茂る大きな森があります。

このような風光明媚な自然に囲まれ、児童は豊かな自然に対する働きかけや地域の素材をいかした学習活動、国頭サバクイや奥間大綱引き等の伝統芸能等の直接体験を通して奥間小学校の歴史と伝統を受け継ぎながら日々成長しています。

赴任してから約三か月、児童は素晴らしい環境に支えられ、明るく素直で、進んで挨拶のできる子が多いと感じています。保護者や地域の方々も地元愛が強く、新職員歓迎会では、体育館に大きな輪ができるほどの人数が集まってくださり、幕開けの踊りや国頭サバクイの歌声での歓迎を受け、身の引き締まる思いがしました。

## 二　学校経営方針

### ㈠　本校の教育目標

○明るく思いやりのある子
○健康でたくましい子
○よく考えがんばる子

これは、人間尊重の精神を基盤とし、知・徳・体の調和の取れた人間性豊かで、地域・社会や国際社会に貢献できる児童の育成、未来を切り拓く児童の育成を基本として定められ、七十八年余の歴史の中でこの教育目標の下、奥間小児童は育まれてきています。私も、この教育目標を受け継ぎ、その具現化を目指し取り組みを進めていきます。

○基本方針と主な取り組み

①　温かい人間関係に支えられた学級経営、学校経営の充実
・学習規律の確立
・支持的風土のある学級・教科経営
・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善

②　特別支援教育の充実
・すべての児童が参加できる授業づくり
教室環境づくり（ＵＤＬの視点重視）
・個に応じた支援体制構築に向け、校内支援委員会及び支援ミーティングの機能化

③　「なりたい自分」「なれる自分」のための学力向上の推進
・体験的な学習や自分を表現する場の充実
・言語能力の確実な育成
・キャリアパスポートの活用
・基礎学力の定着、自学自習力の育成

③　道徳性と望ましい人間関係を築く力を育む心の教育の充実
・道徳授業の充実
・児童会活動や縦割り班活動等の充実

⑤　社会を生き抜く力を育む教育活動
・目的意識を高める指導方法等の充実
・教科横断的な視点でのカリキュラムマネジメント

⑥　魅力ある学校・信頼される学校づくりのための校内研修の充実
・児童の実態把握、すべての児童の学びの保障を目指した授業改善
・地域教育資源を活用した学習の充実

⑦　家庭・地域、関係機関との連携
・家庭と連携し、家庭学習の習慣化、基本的生活習慣の確立
・授業における地域人材や地域資源の活用

## ㈡　めざす児童像

「聴き合い、支え合い、共に学び、共に育つことができる子」

〈育成を目指す資質・能力〉
・主体的に知識、技能を広げる力
・既存の方法にとらわれず、協働的な学びの中で新しいものを生み出す力
・共に学ぶことを楽しむ力
・話を最後までしっかり聴く力

校内研修においては、「聴き合う」関係を基盤とする協働的な学びの実践を通して他者と関わりながら主体的に学びに向かう児童の育成に取り組んでいます。協働と探究のある授業で児童の深い理解を促すよう工夫し、身に付けさせたい資質能力を育んでいきます。

全校児童七十八名の本校は、小規模校に起因する人間関係の固定化は課題でありますが、小規模ゆえに児童一人一人の姿がよく見え、個に応じた手立てをしやすい環境があります。その強みを生かし、全教職員で児童一人一人の特性や能力の把握に努め、個々の児童の活躍の場を多く設定したり、必要な場面で個別に対応したりして、学びや成長を実感できるよう工夫していきます。

本校における小規模校ならではの特性を生かした活動の一つに、縦割り班での「清掃活動」があります。清掃時間に上級生が下級生へ清掃の仕方を優しく教えながら共に働く姿は、なんとも微笑ましく、互いの成長にとっても良い活動となっていることを実感しています。学年を超えて活動することを通して上級生と下級生の人間関係が築かれ、休み時間には、上級生が一年生の教室を訪れ、声をかけたり、一緒に遊んだりする姿も見られます。それは、一年生が安心して学校生活を送ることにもつながっています。

このような互いのつながりを大切にした学習や活動を継続し、児童個々の成長を支えていきます。

## ㈢　めざす学校像

「共に学ぶことを楽しみ、児童の笑顔があふれる学校」

・互いに認め合い、支え合う支持的風土の醸成と学習環境づくりの推進
・児童の学びを保障する授業づくりの推進
・児童のよさを引き出し、主体性を伸ばす主体的な教職員組織の構築

児童は、自分の存在が認められ、大切にされる安心感の中で学ぶ意欲が育まれ、高まり、成長します。その成長を支える土台として、安心安全な学校づくり、学校全体での支持的風土づくりに取り組みます。

また、教職員が心身の健康を保ちながら働きがいを感じ、教師という仕事を持続可能なものにするために、教職員にとっても安心安全な場づくりと、その環境下で行う教育活動の精選、ＲＶ－ＰＤＣＡサイクルを実践しながら様々な教育活動に協働的に取り組みます。同時に、教師一人一人が生き生きと働き続けるために各自ができることの一つとして「学び続ける」ことを推進していきます。

児童の笑顔があふれる学校づくり、地域や保護者にとって教育活動に魅力を感じ応援したくなる学校づくりが私のめざす学校像です。

# 三　おわりに

校長室には「啐琢」と力強く書かれた古い掲額があります。その経緯はわかりませんが、かつて奥間小学校を経営した先輩が思いを持って掲げたことは確かだと思います。「『啐琢同時（同機）』、学ぼうとする児童と教え導く教師の息が合って相通じるまたとない好機、それをとらえることにより、本来児童の持っている力が伸びる」私もその思いを継承し、学校経営の中で大切にしていきたいと思います。全職員で、児童が興味・関心をもって自分から学びたいと思えるような環境をつくり、関わり、児童がやってみたいと一歩踏み出した時、そのタイミングを捉えて指導支援していく！「チーム奥間」として、思いを一つにかわいい奥間っ子達を更に成長させていけるよう取り組んでまいります。

校長一年目として、試行錯誤の部分は多々ありますが、私自身も学び続けることを忘れずに、児童・教職員・保護者・地域の方々との出会いに感謝し、教職員を信じ、認め、時には励まし、「聴き合い、支え合い、共に学び、共に育つ子」の育成が可能となる学校づくりに尽力していく所存です。

新任校長としての抱負

# 夢を持ち じりつ（自立・自律）・協働する生徒の育成

読谷村立読谷中学校　校長　後藤　直　樹

## 一　はじめに

読谷村は、沖縄本島中部の西側にあって東シナ海に面しており、那覇空港から北に車で約四〇分の地にあります。東は海抜二〇〇ｍの読谷山岳から南に連なる稜線を境にして沖縄市に接し、南は嘉手納町、北は恩納村に隣接します。本村は東シナ海に突き出た半島状の形状で、沖縄県の幹線道路である国道五十八号線が縦断しています。重要文化財として国指定及び世界遺産登録を受けた座喜味城跡を有し、海抜百三十ｍからの四方の眺望は実に絶景そのものです。

本校は平成二十二年八月一日に旧校舎（上地）から新校舎（座喜味）に移転し、学校創立七十六年目を迎える伝統ある学校です。「文武両道」を学校経営方針とし、学習面、運動文化面において生徒の活躍が見られ、正門入ってすぐにある石碑「未来夢実現」の文字通り、九一〇名の子どもたちとともに様々な学校生活の場で、子どもたちの可能性と生きる力を育む教育活動を実践しております。

また、各字に伝わる文化の保存・継承に子どもたちが積極的に関わり、その成果を体育祭や総合学習発表会などの学校行事や村まつり等で披露しています。今年は山口県で行われる第二十四回全国中学校総合文化祭において、沖縄県代表として、創作舞踊「泰期～かりゆしの出船」を披露します。ＰＴＡ活動や社会教育活動も活発で、村や地域は教育に熱心で学校教育活動への協力も積極的であります。

## 二　本校の主な取り組み

学校教育目標の実現のため、「夢を持ちじりつ（自立・自律）・協働する生徒」を読谷中学校のスローガンとし、次の取り組みを実践しています。

**「夢」**キャリア教育の充実

①　学校の学びと社会とのつながりを意識した教育活動（主に教科等の授業）

②　生徒が自らの生き方、在り方を考える進路指導の推進

③　計画的・系統的な総合的な学習の時間の推進

**「じりつ（自立・自律）」**自治的活動の育成

①　学習規律の徹底（授業開始のチャイム始業・黙想・立腰）

②　夢現ノートの活用（効果的かつ効率的）

③　道徳教育の充実（自主的に考え行動する態度）

**「協働」**

①　主体的・対話的で深い学びのある諸活動

②　生徒会活動の充実（学級の班活動との連動）

③　ＩＣＴを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な学び

## 三　校長として取り組むこと

①　スローガン「夢を持ち　じりつ（自立・自律）・協働する生徒」の生徒への浸透と全職員が意識した学校教育の充実を図る。

②　校内研修と学力向上推進の連携による教職員の資質能力の向上

③　保護者、地域（自治会）と連携した教育活動の推進

④　業務の精選と効率化による働き方改革の推進

## 四　終わりに

本校のスローガン「夢を持ち　じりつ（自立・自律）・協働する生徒」の育成を、教職員・保護者・地域との連携のもと、実現できるよう頑張っています。

特色ある学校づくり

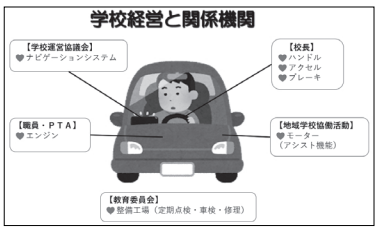
# 企業等を学校経営にいかす取組
## ～コミュニティ・スクールを通じて～

浦添市立港川小学校　校長　金城勝己

### ■はじめに

本校は、浦添市のほぼ中央にある創立四五年目の学校です。校区には公務員宿舎、県営団地があるほか、近年高層マンションが続々と建設され、令和六年度は、約九四〇人の児童が在籍する大規模校となっています。学校周辺の環境としては、国道五八号線から近く、自動車メーカーのショールームや大型量販店などの商業施設がある一方、豊かな生態系をもつ海「カーミージー」が広がるなど多様な顔を持つ地域です。

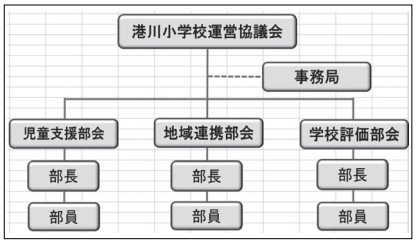
また、地域、保護者とも教育活動へ理解が高く、協力的な方が多くいらっしゃいます。




### ■コミュニティ・スクール委員の選任

コミュニティ・スクール（以後ＣＳ）とは、学校運営協議会が設置されている学校のことで、本校は導入から三年目を迎えます。ＣＳと校長の関わりは、地域、学校により様々あると思います。上記イラストは、私の経験からまとめたもので、本校はＣＳが、ゴールまでの選択肢を提案し、その中から校長が決定する事が多くあります。ＣＳを進める時の悩みの一つは、委員の選任で、経験豊富で人格者が欲しいところです。本校は人口から考えると人材は豊富ですが、逆に、人が多すぎて人材発掘は難しい面があります。

そんな時、ヒントとなったのが、広島県府中市立明郷学園の企業を活用する実践でした。本校校区には多くの企業があります。現在、充て職は本校と関わりが深い所属の方とし、委員の職業上のスキルや経験、人柄を重視し委嘱しています。具体的には、カウンセラー（令和五年度）、企業の役員（株あんしん）、支店長級（大同火災）の管理職に委員として入って頂き、学校課題や学校経営について民間目線の意見を頂戴しています。児童、保護者の価値観が多様化し、学校経営の難しさを感じる中、委員の意見は、経営への新たな気づきがあり大変ありがたいです。

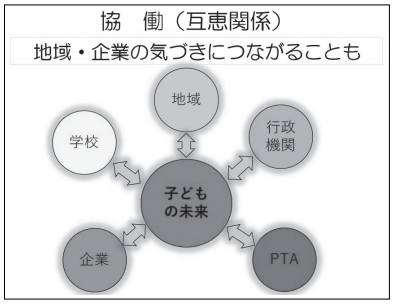



### ■本校が抱える課題への対応

#### ①　不登校・登校しぶり

コロナ感染症が落ち着いて、まず取り組んだのが不登校・登校しぶりの改善です。本校は沖縄県の児童生徒質問紙調査で、「所属」のカテゴリーが極端に低く、支持的風土の醸成が急務であると感じたため、テーマを変更し「特活」を校内研の中心に据えました。

また、担任は、不登校や登校しぶりの児童を支援するため家庭との連携やＳＣ、ＳＳＷとの調整にも注力します。理想は目の前で児童がしぶる様子を専門家に見てもらい、効果的な取組を即座に助言してもうことです。労力も格段に軽減されるはずです。そこで、本校の地域コーディネーターに地域に住む発達支援、教育相談が専門の方を探してもらい、縁あって委員(学識経験者)として委嘱することができました。これにより、週一～二回、登校から一校時までの様子を見てもらい、学校経営への助言を頂きました。担任等はその場、あるいは放課後等に助言を頂くことで、児童理解が深まり、対応する際の言葉や態度などを個別に学ぶことができました。成果として令和五年度は、前年比で不登校が25％改善しました。私の体感としては、半減したように感じられました。



**② 生徒指導（化粧・ピアス・染髪）**

生徒指導部会から、「港川っ子の約束」に化粧、ピアス、染髪について禁止の文言を載せ、保護者へ周知してよいか、との相談がありました。最近は、保護者へ健康被害・安全面の懸念を伝えても保護者から「大丈夫です」との回答を受けることが増えました。この件を、学校運営協議会で熟議して頂きました。前述の教育相談系委員は、禁止では解決になりません。児童の心の問題として寄り添うべきですという意見です。地域の委員は「先生方は、規則として決めた場合、保護者へ働きかける事になる。平行線での話し合いが延々と続けば、先生方は疲弊してしまわないか」との懸念がありました。保護者代表の委員からは、企業はどう考えますか、との質問があり、企業系委員から「お客様の不快とならないように管理しています」との回答がありました。結局、私は「人権」の視点からも、保護者へは、学校の考えを丁寧に説明し協力してもらうこととし、「禁止」の掲載はしないと決定しました。話し合いの過程と結論を職員会議で説明することで、職員が納得し、安心して保護者に対応することができています。

**③ 環境整備（シーサーの再設置等）**

本校は改築して八年を迎えます。改築の後に、卒業記念のシーサーと創立記念の銅像が校庭の片隅に保管されていました。施設でもなく、備品でもありません。そして、処分なのか再設置なのか四十年前のものを誰に相談してよいか分からない状況でした。そこで、CSで審議してもらい、「シーサーは修繕できれば再設置し、できなければ処分。銅像は大きすぎて再設置できず処分」としました。予算をPTAにお願いするわけですから、校長としては独断でなく第三者の意見を聞いて判断したことになり、説得力がありました。作業が無事行われ、シーサーは玄関で毎日児童を見守っています。また、大きくなり過ぎた樹木とその周辺の整備についても、CSの承認を得て整備を進めることができました。

## ■CSの熟議を地域学校協働活動へつなぐ

**① 環境教育（四年総合）**

「カーミージー探検隊」と銘打って校区の海の生物を学ぶ環境教育に取り組んでいます。特徴としては、港川自治会の全面協力で行われていることです。テントの設置や教員の事前研修・実地踏査まで、あらゆるサポートがあり、充実した学習となっています。一九年間にも及ぶ取組が評価され令和五年度環境省「環境教育・ESD実践動画百選」に選定されました。こうした取組から、毎年港川自治会から委員をお願いしています。

また、CSで児童の資質能力向上について熟議することで、五年度は校区にある企業「拓琉金属」からゴミのリサイクルを学習に活かせないかという提案に繋がりました。海の学習と合わせて四年生が工場見学を行いより充実した学習となっています。

**② プログラミング教育**

企業との連携として、OCC（委員外）に不登校・登校しぶりの児童支援に関して相談したところ、今年度六回のプログラミング教育を無償で行ってくださることになりました。低学年を中心に進めていく計画です。

## ■CSから業務改善につながった取組

① 春休み期間にベランダに赤いペンキで四一学級分の安全ラインを引いて頂きました。これは、地域の中学生、高校生の自己肯定感を高める目的で企画され、学校と地域がWin・Winとなった取組です。

② PTA作業で、宜野湾高校の一年生～三年生の約百人がボランティアとして参加しました。保護者と合わせて二百人以上の参加となり、想定よりも広いエリアを一時間で終えることができました。高校生にとっては、ボランティア活動の実績となり、学校は管理職含め十人未満の参加ですむWin・Winの取組となりました。

## ■おわりに

企業等を地域資源と捉え、CSの委員として学校経営に参画して頂く試みは、出会い・ご縁に支えられ形となってきました。今後とも未来ある児童のため試行錯誤しながら、教育環境の充実に努めていきたいと思います。

特色ある学校づくり

# 自己決定をうながす学校づくり

南城市立知念中学校　校長　徳　元　清　政

## 一　はじめに

本校は一九四八年（昭和二三年）四月に六・三・三制の実施により知念村立知念中学校としてスタートした。スタート当初は校長含む職員十名、学級数七学級、在籍二五一名で開校した。その後、平成一八年に南城市（知念村・佐敷町・玉城村・大里村の四町村の合併）が誕生し、南城市立知念中学校となった。

平成一二年（二〇〇〇年）には校区内にある斎場御嶽が、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」世界文化遺産の一つとして登録された。

本地区は、その特徴的な地形・自然条件により、各地で良好な眺望が得られ、高台からの美しい海への眺望やその景観は、多くの人に感動を与えている。また、沖縄には、古代よりニライカナイ信仰（海の彼方の神々が住む場所への憧れ）があり、神々の島とされる久高島など、海への眺望は、信仰を大切にする人々にとって今も特別なものとなっている。

現在、令和六年度において本校は生徒数百二一名、学級数七学級（特別支援学級を含む）、職員数二九名（非常勤等含む）となり、小規模校の中学校となっている。生徒の実態としては、生徒同士お互いのことをよく知っていることや素直でやさしく勤労を惜しまないところである。課題としては自分で考えて、粘り強く課題解決に向けて取り組むことが苦手であること。固定化された価値観・概念・人間関係を覆すことが難しい状況にあると言うところである。

しかし、生徒数の少ない中、生徒の活躍には目を見張るものがあり、近年では男子駅伝大会において、令和二年度九州大会出場。令和三年度には全国大会出場を決めた。また、青少年科学作品展での「県教育長賞」受賞や美術部において「二〇二二年全国中学生アートの甲子園」に上位入賞するなど、文化面・スポーツ面での活躍など「小さな学校の大きな活躍」として生徒の励みとなっている。

## 二　学校経営

### 学校教育目標の変更

本校の校訓は「愛汗大志」として制定され〝愛汗大志〟とは「働くこと（汗）を尊び（愛し）、志を大きく（大志）をもって生き抜いていってほしい」という願いが込められている。コロナ禍を経て、令和の新しい日本型教育や生徒指導提要の改訂を受け、これまでの学校教育目標

○大志を抱き、勤勉で自主的に学習する生徒（大志）

○豊かな人間性をもち、ふるさと知念を愛する生徒（豊かな心）

○心身ともに健康で、忍耐力のある生徒（健康）

を変更し、新しい時代に当てはまる新しい学校教育目標を年度途中に変更した。（令和五年九月）

**新しい学校教育目標**

○自律　自ら考え、判断し、行動する

○尊重　ちがいを理解し、他者を尊重する

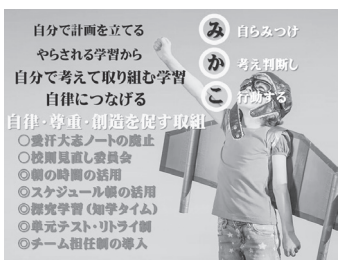
○創造　豊かな発想で、新たな価値を生み出す

を掲げ、これまでの伝統を受け継ぎ、充実・発展させ、「未来に生きる子どもに『生きる力』を身につけさせる」ために取り組んだ。

## 三　具体的な取り組み

### ◎家庭学習帳の廃止と単元テスト・リトライの導入

学力向上の一環としてこれまで取り組んでいた家庭学習ノートの取り組みを廃止した。理由は、取り組み自体がページを埋めるなどの作業と化し、「毎日やること」そして「提出すること」が目的にすり替わっている現状からである。そして、これまでの中間テスト・期末テストを無くし、単元テストを導入。更にリトライ制を導入することで、学習意欲を高めていくとして実践した。



**◎スケジュール帳の活用**

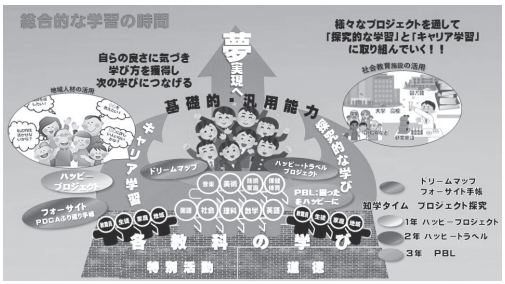
自律した学習者の観点より、スケジュール帳（フォーサイト）を導入し、学級や各教科の共通理解を図って取り組む。

**◎学びを社会とつなげる総合的な学習の時間の改革**

これまで職場体験学習が中心であった総合的な学習の時間を見直し、生徒の探究的な学びの時間へとシフトチェンジ。

自ら見つけ考え行動すると言う合言葉（み・か・こ）で「探究的な学び「自己探究」「プロジェクト探究」の探究活動（プロセス）を通し、教科横断的視点をもって実践する。

→「総合的な学習の時間」のテーマに沿って、社会や地域と向き合う（キャリア教育の視点）




**○生徒の自治的活動の場面を増やす（生徒会　部活動等）**

→ルールメイキング：校則等の見直し、練習計画の立案等

→自己決定場面の創出　特別活動生徒会活動等

**○小中連携の推進**

→小中合同運動会合同授業研究会の実施

**◎チーム担任制の導入・ねらい**

生徒たちの立ち振る舞いは、ひとりの時、集団の中にいる時、状況に応じて変わる。

自我が芽生える思春期ではその傾向が著しく、教師には「集団秩序の管理」と「一人一人の個性の理解と配慮」を両立させることを求められる。変容する行動や態度を見守るにはカウンセリングマインドによる受容的な対応や気付きを促すコーチング等の細やかな指導が求められる。しかし、大勢の生徒一人一人に対し教師一人で対応することは簡単ではない。

複数の教師によるチーム担任制は、「多くの異なる視点で変化を見取ること」や「生徒が話しやすい教師に相談できること」でいち早く課題に気付き、一人一人に応じた支援をチームで行うことをねらいとし、各学年間の連携が可能な週時程の工夫を行った。

## 四　おわりに

**学校教育目標変更に込めた思い「こうあるべき」から脱却し、マインドセットから始めよう**

情報化・グローバル化する現代社会において、学校は時代に合わせたアップデートが求められている。学校現場の課題は、生徒指導や授業改善、社会に開かれた教育課程など、さまざまあるが、それらを議論するだけでは解決に結び付かない。

○休まない子が立派→皆勤賞が表彰される。休むと入試に不利だと不安になる。

○自己犠牲が美徳→苦しくてもみんな頑張っているから、あなたも頑張ってと言われる。

○長く継続を推奨→部活など、一度始めたことは嫌でもやめることが許されない。

○つらくても我慢→どんなにつらくなっても、逃げることを責められる。

○集団に従うのが正義→見た目、行動でみんな一緒を求められる。同調圧力。

○どんなルールも厳守→教師もちゃんと理由が説明できない校則、決まりを守らせる。

○競争するために勉強→テスト、入試が目的の一斉授業。

○みんな友達→誰とでも仲良くすることを強いられる。ひとりが好きな子だっている。

○連帯責任→一人のミスで、全員が罰を受ける。

前述した内容が全て悪い指導だとは言い切れないが、どの指導も一長一短があり、全ての子どもに当てはまる適切な指導とは言えない。これからは子どもの特性を見分けて使い分ける必要があるのではないでしょうか。古くから学校にある文化や、「こうあるべき」という理想の子ども像から脱却できないのは、教師だけでなく保護者、地域の大人にも多いと思われる。それは「自分が過去に受けてきた指導」や、「自分の成功体験」をもとに指導しているからだと考える。

今の世の中で求められるのは、スピーディーに転換・改善し、問題解決する力だと考える。例えば、新しい機能やサービスで最初は穴だらけが多いが、利用者からのフィードバックを受け、どんどん改善し、結果的に良いものになっていく。「こうあるべき」という完成形を描いてからそこを目指すのではなく、まずはやってみる、フィードバックをもらう、試行錯誤しながら改善を続けるというサイクルを回しながらより良いものを生み出すというのがこれからの社会の価値創造のあり方ではないかと考える。

校長講話

# 博愛の心をいだく子供の姿を求めて

宮古島市立上野小学校　校長　與那覇　修

## 一　はじめに

本校は、沖縄本島から約三〇〇km南西にある宮古島の南東部に位置している。南方は、紺碧の太平洋に臨み、変化にとんだ美しい海岸線が続き、東に風光明媚なシギラ浜、南に上野地区の人々が誇る博愛発祥の地「博愛ビーチ」を擁している。

上野地区が博愛発祥の地といわれる所以には、地域の歴史が関係している。一八七三年（明治六年）七月一日、台風にあい宮国沖で座礁したドイツ商船ロベルトソン号の乗組員を地域住民が荒れ狂う海に小舟を漕ぎ出して救出し、手厚く介抱して無事に帰国させた。このことに感激したドイツ皇帝ウィルヘルム一世は、一八七六年、住民の博愛精神を讃えるために「独逸皇帝博愛記念碑」を建立した。上野地区では、人類愛に燃えた祖先の偉業を語り継ぎ、国際社会に生きる豊かな人間性の育成を目指し、救出を行った七月十二日を『博愛の日』としている。

したがって本校では、この祖先の偉業を礎として、『博愛の心』を校訓とし、ふるさとを愛する「思いやりの心」「仲良くする心」「感謝する心」を推進している。

## 二　本校の校訓・学校教育目標と指導の重点

【校訓】

○『博愛の心』

・思いやりの心・仲良くする心・感謝する心

【学校教育目標】

○かしこく　○やさしく　○ねばりづよく

【指導の重点】

○校訓『博愛の心』の育成　○学びの保障

○あいさつ・言葉づかいの奨励

○健康と体力の充実　○特別支援教育の充実

【育成を目指す資質・能力】

○伝え合う力　○認める力　○やり抜く力

## 三　校長講話のねらいと大切にしたいこと

【校長講話のねらい】

○　校訓・学校教育目標などを踏まえた「こんな子になってほしい　こんな学校にしていきたい」という校長としての思いや考え、そして、理念を正しく理解させ伝えること。

○　教職員に対しても、児童に伝えた内容の具現化に向けて、学校教育活動全体を通した様々な場面で、児童の行動や考え方を振り返らせるときの、内省の視点とすること。

【大切にしたいこと】

○　校訓・学校教育目標など、しっかりとしたねらいをもった講話を心がける。

○　児童がやる気になる、前向きになれる内容に心がける。

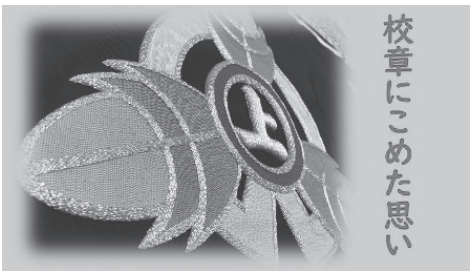
○　児童にもわかりやすい言葉で語る。

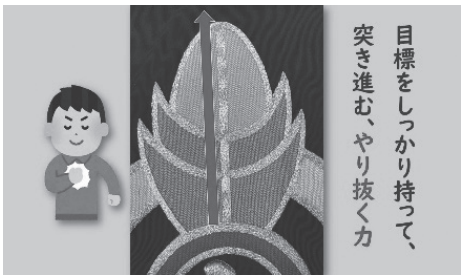
○　必要な場合は、視聴覚機器などを活用する。

○　校長講話の内容は、教職員へのメッセージでもあるという意識をもつ。

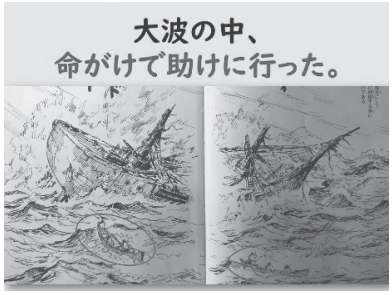
| 回 | 月 | テーマ | 内　容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 5 | 校章にこめた思い | 校訓<br>学校教育目標 |
| 2 | 6 | 平和を考える | 学校生活 |
| 3 | 7 | 博愛の日 | 校訓 |
| 4 | 9 | 何度でも伝えたいこと | 校訓<br>学校教育目標 |
| 5 | 10 | うさぎとかめ | 目標 |
| 6 | 11 | いじめの矢 | 相互理解 |
| 7 | 12 | ぞうさん | 自分らしさ |
| 8 | 2 | あいさつと笑顔 | 感謝の思い |
| 9 | 3 | うつくしい言葉 | 個性の伸長 |

【第一回　五月】
○テーマ「校章にこめた思い」
○内容
・校章デザインの成り立ちから「校章にこめた思い」をひもといていく。
・校章デザインには、子供たちが「校訓や学校教育目標」をめざし、大きく成長してほしいという思いが込められている。






【第三回　七月】
○テーマ「博愛の日」
○内容
・百五十年前、台風でドイツの船が遭難したとき、上野地区の人たちが命がけで乗組員を助けたこと。そして、この美しい心と勇気ある行いを、いつまでも伝えるために、七月十二日を「博愛の日」と決めた。
・上野小学校では、上野地区祖先の美しい心と勇気ある行いを大事にしようということで、『博愛の心』「感謝する心」「仲良くする心」「思いやりの心」を校訓にしている。




【第八回　二月】
○テーマ「あいさつと笑顔」
○内容
・あいさつは、『人と人をつなぐ大切な言葉』であることや、あいさつで、みんなが笑顔になれて、うれしい気持ちになり、さらに、あいさつには、「いつもありがとう」という、『感謝の思い』も含まれていることに気付き、実践への意欲をはぐくむ。

## 五　おわりに

学校には、校訓や学校教育目標などが必ずある。そのことを子供たちに正しく理解させるのは容易ではないが、しっかり理解させることができれば、学校の教育活動への理解や共感が高まると考える。

その意味でも校長講話を通して、校長としての思いや考えを正しく理解させ伝えること。また、教職員に対しても、児童に伝えた内容の具現化に向けて、学校教育活動全体を通した様々な場面で、子供たちの行動や考え方を振り返らせるときの、内省の視点とすることで、校長講話は、子供たちの成長を大きく促す一助になると考える。

校長講話

# 「一人一人が輝いて　大中が輝く」校長講話をめざして

石垣市立大浜中学校　校長　仲地秀将

## 一　はじめに

本校は、昭和二十二年三月三十一日の学校教育法（六・三・三制）の施行に伴い、一九四九年四月一日、新制大浜中学校として創設されました。

本校区は、平得、真栄里、大浜、磯辺、宮良、三和、川原、高田地域からなり、校区が広く歴史と伝統文化を誇る地域です。一方、戦後の移民集落や振興住宅街、団地等、生徒の生活環境は多様でり、本校には、大浜小、川原小、宮良小、平真小、八島小の五つの小学校から児童が進学してきます。

令和六年度は、生徒数四〇〇名、学級数は一六学級（通常：一二、特支：四）で、学校教育目標は、「①自ら学び、自己実現に努める生徒　②正義を愛し、自他を思いやる生徒　③心身ともに健康で、粘り強い生徒　④自然を愛し、郷土文化に親しむ生徒」です。これまでの生徒の活躍はめざましく、男子駅伝部、郷土芸能部、少年の主張大会等で全国大会へ出場しており、他部活動及びロボット同好会等についても県大会上位の成績や、九州大会等へも出場しています。本校キャッチフレーズ「一人一人が輝いて　大中が輝く」のとおり、生徒は日々文武両道に励んでいます。

## 二　校長講話について

校長講話は、校長が生徒に対する唯一の授業と捉え、思いを伝えることができます。講話の内容から教育目標の実現、粘り強く努力することの大切さ、仲間と協働しながら目標を達成する姿勢等を育てることに留意しています。また、充実した校長講話となるよう次の事項に留意しながら実践しています。

① 講話時間は、全校朝会においては一五分程度とし、その他は五分以内とする
② 図表、写真等を多く取り入れ見える化し、分かりやすく伝える（プレゼン）
③ 実体験に基づいた内容を取り入れインパクトを与える
④ 多角的に社会情勢等について分かりやすく伝え将来の生き方について考えさせる
⑤ 自立（自律）した学習者の育成に向けた内容とする

## 三　校長講話の実際

① 具体的な目標を立て根気よく取組（四月）

年度スタートということもあり、生徒一人一人が具体的な目標を立て、年間を通して日々一生懸命取組む姿勢を大切にしてほしいという思いから、故吉田貞雄氏の「夢」という詩の冒頭のフレーズに少しアレンジを施し紹介しながら激励しました。この詩は「夢八訓」とも呼ばれていて、次のように続きます。

夢がある人は、希望がある
希望がある人は、目標がある
目標がある人は、計画がある
計画がある人は、行動がある
行動がある人は、実績がある
実績がある人は、反省がある
反省がある人は、進歩がある
進歩がある人は、夢を叶える

「夢」に始まって、順に希望→目標→計画→行動→実績→反省→進歩と八つのプロセス（八訓）を経て再び「夢」に戻ってきます。つまり、夢をもたなければ夢はかなわない、しかし単に夢をもつのではなく、八訓をループしながら大きく成長していかなければならない、ということを教えています。

まさに「ＰＤＣＡサイクル」で、Plan→Do→Check→Actionというプロセスを繰り返すことで、絶え間ない学習が重要であると教えています。

特に、生徒に意識させたことは、計画と行動です。行動は、日々の具体的な取組であり、毎日の学校生活の中で、一生懸命どのように具体的に取組んでいるか。その取組み、積み重ねが、将来の大きな夢実現に繋がっていくことの話をしました。

### ② 変化し続ける社会情勢の中で、学校教育も変わる（五月）

講話の前段では、Society5.0の時代を迎え、クラウド情報を共有した仮想空間を含め全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され今までにない新たな価値が次々と生み出されるていく社会となっていくこと、そして、学校現場では、ギガスクール構想がスタートし、学校教育の形態も大きく変わり、更にこれからの社会が加速度的に発展していくことについて話しました。

次に、社会情勢がどのように変化していくのか、次項を挙げながら考えを深めました。

○ 世界の人口は増え続け一昨年の十一月に八十億人、二〇五〇年には、約一〇〇億人に達することが予測されてること

○ 日本の人口は、二〇五〇年頃は一億人を切り、それだけではなく少子高齢化社会で、高齢化率は三九．六％、生産労働人口が、今より二十五％も減ることが予想

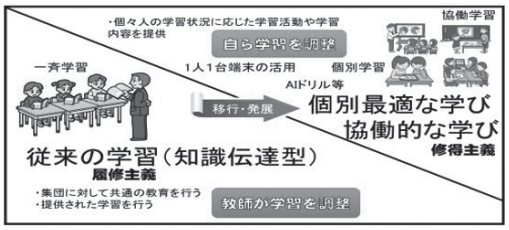
○ 日本は、世界競争力ランキングで一九九一年は一位だったのが、現在は、三十八位となっていること

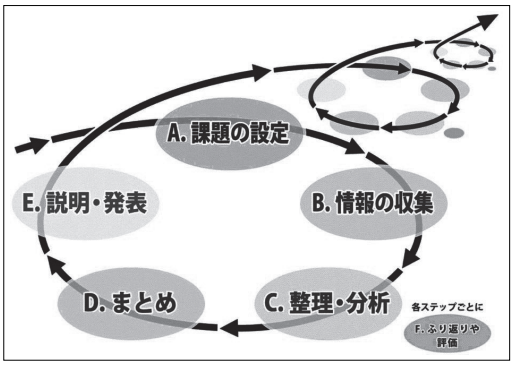
○ 世界で、デジタル競争力が弱い日本

○ 企業形態が大きく変わったこと

○ 二十年後には、今ある仕事の四十九％がなくなり、二〇三〇年までには、今ある仕事の二十七％が自動化されると予想

そのことから、学校教育も大きく変わろうとしています。これまでの知識伝達型の一斉授業の形態ではなくICT等を活用してシンキングサイクルを例に、自分達で学びを進める学習になり、自分で、仲間と協働して課題を解決する、学び方を学ぶ学習を身につけなければならないこと、つまり、生涯にわたって、学び続ける力をつけてくことが求められていて、自らが学習を調整できるような自己調整力の育成について話しました。




### ③ 平和について考える（六月）

今年は、終戦七十九年目を迎えます。沖縄での地上戦では、多くの子どもや女性、お年寄りが戦争に巻き込まれ犠牲となりました。しかし、台湾有事や中国の海洋進出、頻発する北朝鮮のミサイル発射実験などを理由に、私たちの住んでいる南西地域には基地ができ自衛隊を増強し、いわゆる南西シフトが進んでいます。そして、悲しいことに世界一九六ヵ国中、紛争や戦争をしている国等が二十以上もあるそうです。そのことから、生徒一人一人に次の内容について考えを深めました。

○ なぜ、戦争が起きるのか

○ どうしたら紛争や戦争が終わるのか

○ これから大人になって未来を生きていく皆さんは、どんな時代を迎えるのか

○ 平和について自分にできること

大人も子どもも、平和について真剣に考えていくことが大切で、身近なことから今、自分にできることを深く考え勇気を持って行動していくことが重要です。皆さん一人一人が他者への気遣い、思いやりや優しさ等の身近な行動の積み重ねが、大浜中学校を平和にし、世界の平和に繋がっていくことについて話をしました。

## 四 おわりに

私は、もともと人前で話すことや原稿を書くことが大の苦手です。しかし、校長講話を聞いた生徒が、「校長先生のお話はいつも短くて、とても分かりやすく勉強になります」と言ってくれました。そのおかげで少し自信が持てたのも確かです。題材を考えるのにいつも苦労していますが、変化し続ける社会情勢の中で、学校教育で生徒に何を教えるのか、常に自問自答しながら私自身も学び続け、校長講話を通して希望が持てたり、前向きに頑張れたり、生きる力を育んでいけるような校長講話に、今後も努めていきたいと思います。

## 校 長 昇 任

【令和６年６月１日付】南城市立大里北小学校長　國　仲　貴　光

【令和６年７月１日付】伊 江 村 立 西 小 学 校 長　井　口　憲　治

沖縄県小・中学校長会会報第86号

発行者　沖縄県小・中学校長会
住　所　那覇市松尾１－６－１（沖縄県教職員共済会館八汐荘３Ｆ）
電話　098-943-9747　　FAX　098-943-9748
E-mail:oki-koutyoukai2@kca.biglobe.ne.jp(事務局長)
oki-koutyoukai1@kpe.biglobe.ne.jp(事務局員)

印　刷　株式会社　国　際　印　刷
電話　098-857-3385　　FAX　098-857-3892
E-mail: kokusai@herb.ocn.ne.jp